

けを三が一うちかき、丸みを上へしてたて、風爐のあたりに灰のつかぬやうに、灰すくなからず、又おほからず、前にはばかり見ゆるとをり灰する也、さのみかわる事もなきを、本をまらぬ人におどされて、臺子風爐の炭灰はならぬ物と云おもふはおろか也、臺子風爐の炭は客入前にしてをく也、臺子風爐の炭を釜あげて見ると云事、かつてなき法也。

〔茶道織有傳〕下 炭茶の手前の大體

それ炭を置には、炭取持出、いろいろの右のわき真中に、ふちより三寸ばかりのけて置、ふくさにてふたをしめ、棚にある羽ばうきを取、いろいろのふちをはき入、釜もはきて、炭取の前のた、みに炭取のとをりに置也、扱ふところより釜しきの紙を取出し、水さしの置所におきて、其かへりに棚のくわんをとり、釜をあげて、少居なをりて、勝手の地しき窓の下まで釜をにじりのけて、くわんをはづし、勝手のかべと釜とのはづれに置也、火箸を取て圍爐裏の中へ入とき、客もいろいろの中を見て、炭のながれに氣をつけほむる也、扱下地の火をよき比になをし、勝手のまやうじをあげ、はいほうろく薫物入取てあとをまめ、炭取を右の方のかべぎわに置、爐のふちのあたりまで、はいほうろくをよせて、爐中へはいをする也、そのはいほうろくを羽ばうき置たる右の方に置て、扱炭取をば又爐ぎわへなをし、白すみを手にてはいほうろくの中へとりて、長すみを手にて前の方に一もんに置、どうすみ、輪すみ、へぎすみなどを、十もんじはしかけ、きれのなきやうにおき、上に白すみを二ツ三ツあいしらい、下の火うつりよきやうにする事専用也、又炭ひくきは悪し、さりながら釜かけておせぬやう尤也、扱薫物を取てくべ、炭取をわきへよせ、爐のあたりをはき入、土だんも五とくのつめをもはき、釜の有方の地敷窓のまやうじをあげて、釜のふたをふくさにて取て、内を見て水へりたると思は、またふたをして、勝手のまやうじをあげ、はいほうろくと薫物入とを持って入、ぬり小口に水を入、ふたの上に茶巾をまぼりさばきて置、其上にふた置